

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.60



ニュース番組を見ない 子どもたち、予期せぬ災害に備え

NIT情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

大人にとっては情報収集の手段として、「テレビを見る」という行為は普通のことであるが、今の子どもたちがどうやって情報を得ているかを大人は案外知らないのだ。

台風被害の多い近年、誰もが台風情報を得ていると思っているのは大人だけだ。避難を促す報道や防災無線も全く無縁の生活を送っている人たちがいる。高齢者が情報過疎なのかと思われるかもしれないが、テレビを見る習慣のある人はリアルタイムに情報を得ている。情報過疎にしているのはテレビを見ない若い世代なのだ。

いろいろな情報を得る手段がインターネットではあるが、情報量が多すぎ、知らなければいけない情報が伝わらないのも、インターネット環境なのだ。ネットで検索すれば多くの情報が入手できる。しかし古い情報も新しい情報と同じように表示される。知りたい情報と、知らなければいけない情報は、ネット上では扱い方が違う。

『あなたへのおすすめ』とネットでは利用者個人の趣味趣向に合わせた情報が表示欄の上位

に現れ、少しでも知りたい情報がいち早く手に入るようにシステムが選んでくれるのだが、これは「知らなくてはいけない情報」に含まれない場合があるのだ。一般的なニュースアプリやブラウザ等では、災害情報は、あなたへのおすすめに選ばれないことがある。テレビと比較して考えてもらいたい。テレビであれば大規模災害

が起きると、特番でニュースが流れるが、そもそもテレビ本体を持っていない世代も多い。テレビが家庭にあってもネットに接続されていて、YouTubeやネット番組のモニターとしてしか使用していない家庭もある。子どもがテレビにゲーム機を接続して常時使用しているので、一般放送をしばらく見えないという家庭もある。

煽り運転で逮捕者が出ると、同じような事案が次々とテレビ番組で取り上げられる。なぜ、またやってしまうのか？と疑問に思う人はテレビを見ている人で、加害側はニュースを見ないのだから逮捕されることを知らない。災害が起き、世間が騒いでいても、ニュースを見ていない人は惨状を知らずにいる。

『必要な情報の得方』を情報が自由に入手できる時代だからこそ考える必要がある。

《NHKニュース防災》というアプリはNHKで放送されているニュースが見られる他、マップで河川の増水状況が確認できる。特に台風シーズンになるとライブカメラなどで様子を確認することができ、早めの避難など自分で判断するのに役立つ。ニュースの内容もNHKの放送と同じものが主で、ネット上の「いいね」に左右されるようなこともないようだ。なにより、災害時に避難先にテレビがなくても、ネット環境さえあれば避難情報は確認できる。停電してもバッテリーさえあればニュース番組が見られるのだから、防災グッズとしてあらゆる世代がダウンロードしておく必要がある。

『わが家の防災』というアプリは、現在地からハザードマップが確認でき、自分の居る場所が浸水するのか、土砂災害危険箇所なのかを事前に調べられる。旅行先など見知らぬ場所でも避難所やハザードマップが確認できる。カメラモードを使うと避難したい方向の景色を見ながら歩くことができるので、洪水で道が見えなくても避難所の方向がわかる。

『AbemaTV』アプリなら、24時間ひたすらニュース番組が見られる。

TwitterやInstagramで個人も情報を発信できるが、発信する内容は人それぞれの価値観で表現が変わる。ひとつの基準を自分の中につくるためにもテレビのニュース番組を見る習慣を子どもたちにも持つてもらいたい。